

令和4年4月26日

内閣総理大臣
岸田 文雄殿

日本維新の会
共同代表 馬場 伸幸



抗議文

本日、岸田総理大臣は、大韓民国次期大統領の尹錫悦（ユン・ソクヨル）氏が派遣した政策協議団と会談を行った。

文在寅政権において、歴史認識問題や徴用工問題などによって日韓関係が戦後最悪に至ったことから、次期政権と未来志向の対話を進めていくことに異論はない。特に、ロシアによるウクライナ侵略や北朝鮮のミサイル開発問題など安全保障に関わる事態に対応する観点から、早急に韓国次期政権と協議を進める必要性は理解できる。

しかしながら、外交儀礼上及び外交戦略上、総理大臣と面会できる者は、一定の地位の者に限るべきである。加えて、日韓関係改善の前提として、日本の立場と国益に基づく毅然とした対応が必要であることは言うまでもない。

今般、尹次期大統領が派遣した政策協議団は、次期大統領の親書を携えているとはいえ、代表は国会副議長であり、総理大臣が面会するに相応しい人物は派遣されていない。同政策協議団は訪日前に訪米しバイデン政権に親書を渡しているが、大統領補佐官が対応したと承知している。にもかかわらず、我が国の同政策協議団への対応として、総理大臣が面会したことについては、外交儀礼上及び外交戦略上、間違った対応であると断じざるを得ない。

以上の理由から、岸田総理大臣の対応について、深い遺憾の意を表明するとともに、強く抗議する。